

Sun Blade X6275 M2 サーバーモジュール
Windows オペレーティングシステムイン
ストールガイド



Part No: 821-3638-10
2010 年 11 月、Revision A

このソフトウェアおよび関連ドキュメントの使用と開示は、ライセンス契約の制約条件に従うものとし、知的財産に関する法律により保護されています。ライセンス契約で明示的に許諾されている場合もしくは法律によって認められている場合を除き、形式、手段に関係なく、いかなる部分も使用、複写、複製、翻訳、放送、修正、ライセンス供与、送信、配布、発表、実行、公開または表示することはできません。このソフトウェアのリバース・エンジニアリング、逆アセンブル、逆コンパイルは互換性のために法律によって規定されている場合を除き、禁止されています。

ここに記載された情報は予告なしに変更される場合があります。また、誤りが無いことの保証はいたしかねます。誤りを見つけた場合は、オラクル社までご連絡ください。

このソフトウェアまたは関連ドキュメントを、米国政府機関もしくは米国政府機関に代わってこのソフトウェアまたは関連ドキュメントをライセンスされた者に提供する場合は、次の通知が適用されます。

U.S. GOVERNMENT RIGHTS Programs, software, databases, and related documentation and technical data delivered to U.S. Government customers are "commercial computer software" or "commercial technical data" pursuant to the applicable Federal Acquisition Regulation and agency-specific supplemental regulations. As such, the use, duplication, disclosure, modification, and adaptation shall be subject to the restrictions and license terms set forth in the applicable Government contract, and, to the extent applicable by the terms of the Government contract, the additional rights set forth in FAR 52.227-19, Commercial Computer Software License (December 2007). Oracle America, Inc., 500 Oracle Parkway, Redwood City, CA 94065.

このソフトウェアもしくはハードウェアは様々な情報管理アプリケーションでの一般的な使用のために開発されたものです。このソフトウェアもしくはハードウェアは、危険が伴うアプリケーション（人的傷害を発生させる可能性があるアプリケーションを含む）への用途を目的として開発されていません。このソフトウェアもしくはハードウェアを危険が伴うアプリケーションで使用する際、安全に使用するために、適切な安全装置、バックアップ、冗長性（redundancy）、その他の対策を講じることは使用者の責任となります。このソフトウェアもしくはハードウェアを危険が伴うアプリケーションで使用したことに起因して損害が発生しても、オラクル社およびその関連会社は一切の責任を負いかねます。

Oracle と Java は Oracle Corporation およびその関連企業の登録商標です。その他の名称は、それぞれの所有者の商標または登録商標です。

AMD、Opteron、AMD ロゴ、AMD Opteron ロゴは、Advanced Micro Devices, Inc. の商標または登録商標です。Intel、Intel Xeon は、Intel Corporation の商標または登録商標です。すべての SPARC の商標はライセンスをもとに使用し、SPARC International, Inc. の商標または登録商標です。UNIX は X/Open Company, Ltd. からライセンスされている登録商標です。

このソフトウェアまたはハードウェア、そしてドキュメントは、第三者のコンテンツ、製品、サービスへのアクセス、あるいはそれらに関する情報を提供することがあります。オラクル社およびその関連会社は、第三者のコンテンツ、製品、サービスに関して一切の責任を負わず、いかなる保証もいたしません。オラクル社およびその関連会社は、第三者のコンテンツ、製品、サービスへのアクセスまたは使用によって損失、費用、あるいは損害が発生しても一切の責任を負いかねます。

目次

| | |
|---|----|
| このマニュアルの使用方法 | 5 |
| 製品情報 Web サイト | 5 |
| 関連ドキュメント | 5 |
| このドキュメントについて (PDF と HTML) | 7 |
| ドキュメントのコメント | 8 |
| 寄稿者 | 8 |
| 変更履歴 | 8 |
| 概要 | 9 |
| Sun Blade X6275 M2 サーバーモジュールへの Windows OS のインストール | 9 |
| マルチポートケーブル接続 | 10 |
| Windows Server 2008 R2 オペレーティングシステムのインストール | 13 |
| Windows Server 2008 R2 インストールの作業マップ | 13 |
| ローカルまたはリモートメディアを使用して Windows Server 2008 R2 をインストールする方法 | 14 |
| PXE ネットワークを使用した Windows Server 2008 R2 のインストール | 19 |
| インストール後の作業 | 23 |
| サーバー固有のデバイスドライバのインストール | 23 |
| 追加ソフトウェアのインストール | 26 |
| WIM イメージにドライバを追加する方法 | 28 |
| 索引 | 31 |

このマニュアルの使用方法

この節では、関連ドキュメント、フィードバックの送信、およびドキュメントの変更履歴について説明します。

- 5 ページの「製品情報 Web サイト」
- 5 ページの「関連ドキュメント」
- 7 ページの「このドキュメントについて (PDF と HTML)」
- 8 ページの「ドキュメントのコメント」
- 8 ページの「寄稿者」
- 8 ページの「変更履歴」

製品情報 Web サイト

Sun Blade X6275 M2 サーバーモジュールに関する情報については、<http://www.oracle.com/goto/ blades> ページにアクセスし、ページの下部にある一覧でご使用のサーバーモデルをクリックしてください。

このサイトには、次の情報やダウンロードへのリンクがあります。

- 製品情報および仕様
- ソフトウェアおよびファームウェアのダウンロード

関連ドキュメント

Oracle の Sun Blade X6275 M2 サーバーモジュールに関連するドキュメントの一覧を次に示します。これらのドキュメントおよびその他のサポートドキュメントは、次の Web サイトで入手できます。

<http://docs.sun.com/app/docs/prod/blade.x6275m2?l=ja>

| ドキュメントグループ | マニュアル名 | 説明 |
|---|--|---|
| Sun Blade X6275 M2 サーバーモ ジュールドキュメ ント | Sun Blade X6275 M2 サーバーモ ジュール製品ドキュメント | 検索と索引を含む、アスタリスク (*) の付いたすべてのドキュメントの統 合 HTML バージョン。 |
| | 『Sun Blade X6275 M2 サーバーモ ジュールご使用の手引き』 | 図によるセットアップのクイックリ ファレンス。 |
| | 『Sun Blade X6275 M2 サーバーモ ジュール設置マニュアル』* | サーバーを設置、ラック収納、およ び設定して初めて電源を入れるま での方法。 |
| | 『Sun Blade X6275 M2 サーバーモ ジュールご使用にあたって』* | サーバーに関する重要な最新情報。 |
| | 『Sun Blade X6275 M2 サーバーモ ジュール Oracle Solaris オペレーティ ングシステムインストールガイド』* | Oracle Solaris OS をサーバーにイン ストールする方法。 |
| | 『Sun Blade X6275 M2 サーバーモ ジュール Linux オペレーティングシ ステムインストールガイド』* | サポートされる Linux OS を サーバーにインストールする方法。 |
| | 『Sun Blade X6275 M2 サーバーモ ジュール Windows オペレーティ ングシステムインストールガイド』* | サポート対象のバージョンの Microsoft Windows OS をサーバーに インストールする方法。 |
| | 『Sun Blade X6275 M2 サーバーモ ジュール Oracle VM オペレーティ ングシステムインストールガイド?』* | サポート対象のバージョンの Oracle VM OS をサーバーにインストールす る方法。 |
| | 『Oracle x86 サーバー診断ガイド』* | サーバーの問題を診断する方法。 |
| | 『Sun Blade X6275 M2 サーバーモ ジュールサービスマニュアル』* | サーバーの保守と維持管理を行う方 法。 |
| 『Sun Blade X6275 M2 Server Module Safety and Compliance Guide』 | サーバーの安全性および適合性に関 する情報。 | |
| 『Oracle Integrated Lights Out Manager (ILOM) 3.0 補足マニュアル Sun Blade X6275 M2 サーバーモジュール』* | サーバーの Integrated Lights Out Manager のバージョン固有の補足情 報。 | |
| 保守ラベル | サーバーモジュールに表示される保 守ラベルのコピー。 | |
| Sun Disk Management のド キュメント | 『Sun x64 Server Disk Management Overview』 | サーバーの記憶域の管理に関する情 報。 |

| ドキュメントグループ | マニュアル名 | 説明 |
|--|--|--|
| x64 サーバーのアプリケーションとユーティリティに関するドキュメント | 『Sun x64 Server Utilities Reference Manual』 | サーバーにインストールされているユーティリティの使用方法。 |
| Oracle Integrated Lights Out Manager (ILOM) 3.0 ドキュメント | 『Oracle Integrated Lights Out Manager (ILOM) 3.0 機能更新およびリリースノート』 『Oracle Integrated Lights Out Manager (ILOM) 3.0 入門ガイド』 『Oracle Integrated Lights Out Manager (ILOM) 3.0 概念ガイド』 『Oracle Integrated Lights Out Manager (ILOM) 3.0 Web Interface 手順ガイド』 『Oracle Integrated Lights Out Manager (ILOM) 3.0 CLI 手順ガイド』 『Oracle Integrated Lights Out Manager (ILOM) 3.0 管理プロトコルリファレンスガイド』 | ILOM の新機能に関する情報。 ILOM 3.0 の概要。 ILOM 3.0 に関する概念情報。 Web インタフェースで ILOM を使用する方法。 コマンドで ILOM を使用する方法。 管理プロトコルに関する情報。 |

これらのドキュメントの一部については、前述の Web サイトで簡体字中国語、韓国語、日本語、フランス語、スペイン語の翻訳版が入手可能です。英語版は頻繁に改訂されており、翻訳版よりも最新の情報が記載されています。

このドキュメントについて (PDF と HTML)

このドキュメントセットは、PDF および HTML の両形式で利用できます。トピックに基づく形式 (オンラインヘルプと同様) で情報が表示されるため、章、付録、およびセクション番号は含まれません。

特定のトピック (ハードウェアの取り付けやプロダクトノートなど) に関する情報をすべて含む PDF は、ページの左上隅にある PDF ボタンをクリックして生成できます。

注 - 「ドキュメント情報」トピックおよび「索引」トピックには、対応する PDF がありません。

ドキュメントのコメント

製品ドキュメントの品質向上のため、お客様のご意見、ご要望をお受けしております。コメントを送信するには、次のドキュメントサイトの任意のページの右下にあるフィードバック {+} リンクをクリックします。 <http://docs.sun.com>

寄稿者

主要執筆者: Ralph Woodley、Michael Bechler、Ray Angelo、Mark McGothigan。

寄稿者: Kenny Tung、Adam Ru、Isaac Yang、Stone Zhang、Susie Fang、Lyle Yang、Joan Xiong、Redarmy Fan、Barry Xiao、Evan Xuan、Neil Gu、Leigh Chen、Eric Kong、Kenus Lee。

変更履歴

次の一覧はこのドキュメントセットのリリース履歴です。

- 2010年11月、初版発行。

概要

この節では、Sun Blade X6275 M2 サーバーモジュールへの Windows Server 2008 R2 64 ビットオペレーティングシステムのインストールを開始する前に完了しておく必要がある作業の手順について説明します。

このセクションには、次のトピックが含まれています。

- 9 ページの「Sun Blade X6275 M2 サーバーモジュールへの Windows OS のインストール」
- 10 ページの「マルチポートケーブル接続」

Sun Blade X6275 M2 サーバーモジュールは2つのノードで構成されています。それぞれのノードは独自のサービスプロセッサ (SP) を備えており、独自のオペレーティングシステムをサポートできます。これらのノードは相互に完全に独立しており、独立したサーバーと同様の方法で管理する必要があります。したがって、各サーバーモジュールについて、各ノードにオペレーティングシステムを個別にインストールする必要があります。

Sun Blade X6275 M2 サーバーモジュールへの Windows OS のインストール

Sun Blade X6275 M2 サーバーモジュールに Windows OS をインストールする前に、次の各節に目を通して、準備すべき事柄と意思決定プロセスについて理解してください。

準備すべき事柄

インストールを開始する前に、次の作業を完了します。

1. サーバーハードウェアを設置します。
2. (省略可) サービスプロセッサを設定します
3. IP アドレスやネットマスクなどの必要な情報を収集します。

決定すべき事柄

- OS をインストールする場所。OS は、ハードドライブに似たオプションの Sun Flash モジュール (FMod) を使用してインストールできます。FMod を取り付ける手順については、『Sun Blade X6275 M2 サーバーモジュールサービスマニュアル』を参照してください。

注 - Sun Blade X6275 M2 サーバーモジュールでは、デバイスが USB ポートまたはサービスプロセッサ経由で接続された業界標準の RKVM がサポートされます。システムへの USB 接続を設定する方法については、『Sun Blade X6275 M2 サーバーモジュール設置マニュアル』の「ILOM を使用したホストコンソールへのアクセス」を参照してください。

- オペレーティングシステムとドライバを更新する必要性。
ソフトウェアの更新については、23 ページの「インストール後の作業」を参照してください。

サポートされているオペレーティングシステムの完全な一覧については、次のサイトを参照してください。<http://www.oracle.com/goto/x6275m2>

次の作業

このマニュアルの各節では、インストールに関する詳細な情報を提供します。

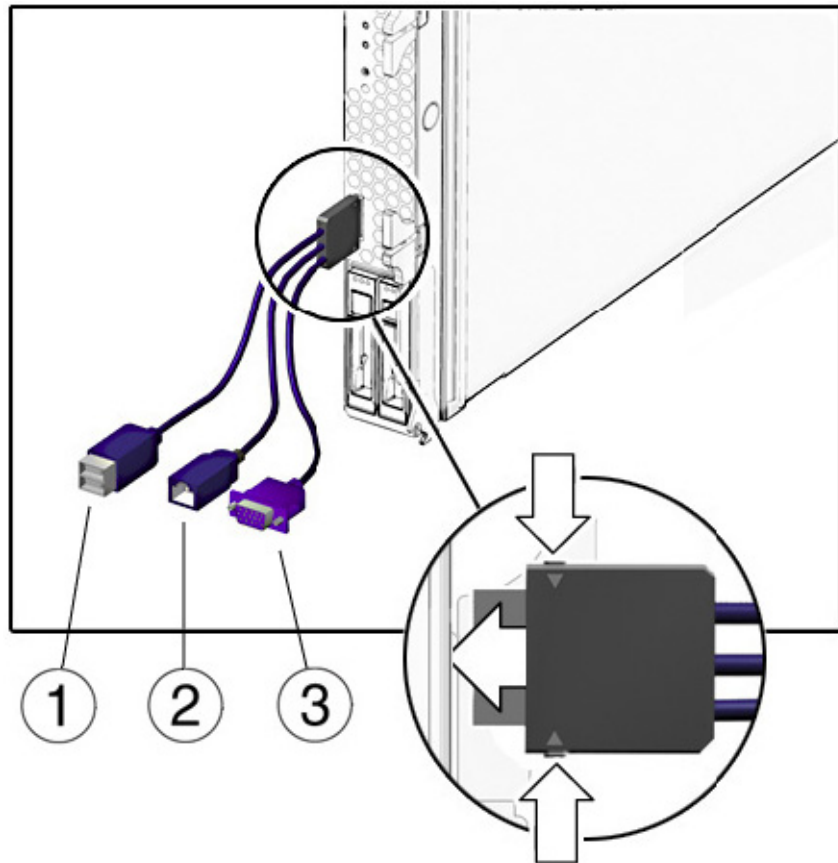
また、オペレーティングシステムに関するインストール、管理、および設定に関するドキュメントも揃えておいてください。これらのドキュメントは、通常、マニュアル冊子として配布メディアに付属しているか、PDF ファイルとしてメディア自体に格納されています。多くの場合、このようなドキュメントの最新版は、OS ベンダーの Web サイトからダウンロードすることもできます。

マルチポートケーブル接続

ローカルに (サーバーで物理的に) インストールする場合は、サーバーモジュールにマルチポートケーブルを直接接続する必要があります。

▼ ローカルインストールの場合にマルチポートケーブルを接続する方法

- 1 OSをインストールするノードにマルチポートケーブルを接続します。



| | |
|---|--|
| 1 | デュアルUSB コネクタ。 |
| 2 | RJ-45 コネクタ。このコネクタはILOM へのシリアルアクセスを提供します。 |
| 3 | VGA ビデオコネクタ。 |

- 2 マルチポートケーブルのいずれかの **USB** コネクタに **USB** ハブを接続します。
 10 ページの「マルチポートケーブル接続」を参照してください。

- 3 **USB** ハブまたはその他の **USB** コネクタに、キーボード、マウス、および **DVD** ドライブを接続します。
- 4 **VGA** ポートにモニターを接続します。

Windows Server 2008 R2 オペレーティングシステムのインストール

この節では、Windows Server 2008 R2 オペレーティングシステム (Operating System、OS) のインストールに関する情報を提供します。

このセクションには、次のトピックが含まれています。

- 13 ページの「Windows Server 2008 R2 インストールの作業マップ」
- 14 ページの「ローカルまたはリモートメディアを使用して Windows Server 2008 R2 をインストールする方法」
- 19 ページの「PXE ネットワークを使用した Windows Server 2008 R2 のインストール」

Windows Server 2008 R2 インストールの作業マップ

一連の作業として定義されるインストールプロセスを事前に確認するには、次の表を使用します。この表には、必要な作業とその説明、および作業の実行手順の参照先が記載されています。

表1 Windows Server 2008 R2 インストールの作業マップ

| 手順 | タスク | 説明 | 関連トピック |
|----|----------------------------------|---|---|
| 1 | インストールの前提条件を確認します。 | サーバーにオペレーティングシステムをインストールする場合に適用される要件がすべて満たされていることを確認します。 | 9 ページの「準備すべき事柄」 |
| 2 | Windows のインストールメディアを収集します。 | Windows OS には、Windows OS のインストールに必要な CD および DVD メディアとドキュメントが標準装備されています。 | Windows 2008 R2 のメディアは、次のサイトでダウンロードまたは注文できます。 http://www.microsoft.com |
| 3 | Windows 2008 R2 OS インストールを実行します。 | この節の説明に従って Windows 2008 R2 オペレーティングシステムをインストールします。 | 14 ページの「ローカルまたはリモートメディアを使用して Windows Server 2008 R2 をインストールする方法」 19 ページの「PXE ネットワークを使用した Windows Server 2008 R2 のインストール」 |

表1 Windows Server 2008 R2 インストールの作業マップ (続き)

| 手順 | タスク | 説明 | 関連トピック |
|----|---|---|---------------------|
| 4 | 該当する場合、インストール後にドライバと追加ソフトウェアをインストールします。 | 必要な場合は、更新済みのサーバー固有ドライバやサーバーの追加ソフトウェアをインストールします。 | 23 ページの「インストール後の作業」 |

注 - Microsoft Windows オペレーティングシステムの全インストールプロセスについては、このセクションでは説明していません。この節では、Windows 2008 R2 メディアの起動、起動時のドライバのインストール(必要な場合)、およびドライブのパーティション分割に関する手順について説明します。詳細は、次のサイトにある Microsoft Windows 2008 R2 の製品ドキュメントを参照してください。<http://www.microsoft.com/windowsserver2008/en/us/product-documentation.aspx>

▼ ローカルまたはリモートメディアを使用して Windows Server 2008 R2 をインストールする方法

始める前に 開始する前に次の手順を完了します。

- Windows 2008 R2 の CD か DVD (内部または外部 DVD)、または Windows 2008 R2 の ISO イメージを入手します。

注 - PXE 環境からインストールメディアを起動する場合の手順については、19 ページの「PXE ネットワークを使用した Windows Server 2008 R2 のインストール」を参照してください。

- 9 ページの「準備すべき事柄」に記載されているオペレーティングシステムをインストールするために準備しておくべき事柄の中から該当するものをすべて完了します。
- インストール方法(コンソール、起動メディア、インストールターゲットなど)を選択します。

この手順を完了したあとで、23 ページの「インストール後の作業」で説明されているインストール後の作業を行います。

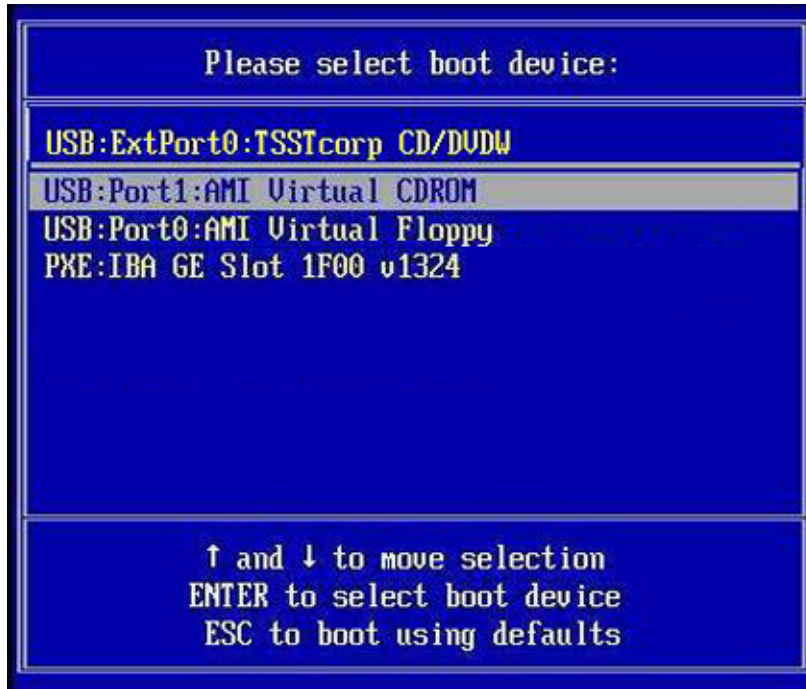
- 1 インストールメディアが起動可能な状態であることを確認します。

例:

- 配布メディアの場合: ローカルまたはリモートの USB DVD-ROM ドライブに Windows Server 2008 R2 配布メディア (CD #1 または単一の DVD) を挿入します。

- ISO イメージの場合: ILOM リモートコンソール機能にアクセスするシステムに ISO イメージをコピーします。リモートコンソールを起動したら、必ず JavaRConsole デバイスメニューから ISO イメージをマウントしてください。
- 2 サーバーをリセットまたは電源投入します。
- 例:
- **ILOM Web** インタフェースで、JavaRConsole のキーボードメニューから「Control Alt Delete」を選択します。
 - ローカルサーバーで、前面パネルにある電源ボタンを押してサーバーの電源を切り、ふたたび電源ボタンを押してサーバーの電源を入れます。
 - サーバー **SP** の **ILOM CLI** で、次のように入力します。 **reset /SYS**
 - **CMM** の **ILOM CLI** で、次のように入力します。 **reset /CH/BLn/SYS**
n は、シャーシ内にあるサーバーモジュールの番号です。
- BIOS 画面が表示されます。
- 3 BIOS POST 画面に、「Press F8 for BBS POPUP (F8 キーを押して BBS をポップアップさせます)」が表示されたら、F8 キーを押して起動デバイスを選択します。
「Boot Device (起動デバイス)」ダイアログボックスが表示されます。

注-インストール時に表示されるダイアログボックスは、サーバーに取り付けられているストレージおよびストレージコントローラのタイプによって異なる場合があります。



- 4 「Boot Device (起動デバイス)」ダイアログボックスで、使用対象として選択した Windows メディアのインストール方法に応じたメニュー項目を選択し、Enter キーを押します。

例:

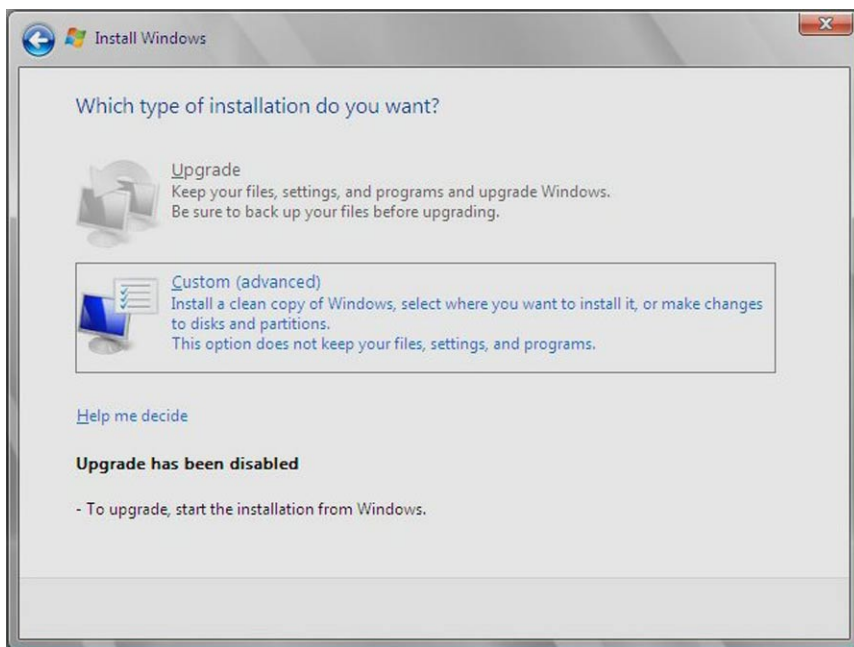
- Windows ローカル配布を選択した場合は、「CD/DVDW (CD/DVDW)」を選択します。
- ILOM リモートコンソール配布を選択した場合は、「Virtual CDROM (仮想 CDROM)」を選択します。

- 5 「CD からブートするにはいずれかのキーを押します (Press any key to boot from CD)」というプロンプトが表示されたら、いずれかのキーを押します。

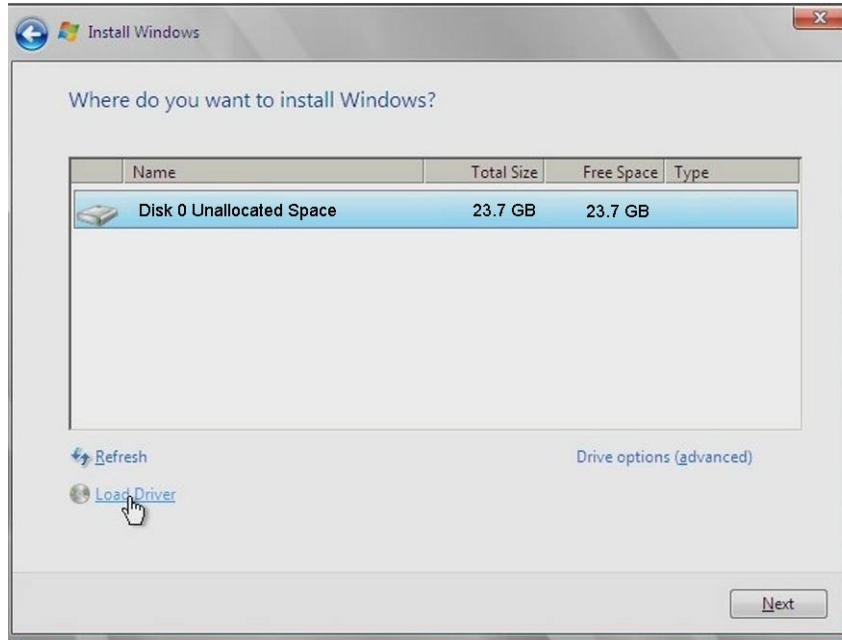
Windows インストールウィザードが起動します。

次のダイアログボックスが表示されるまで Windows インストールウィザードを進めます。

- 6 「Custom (advanced) (カスタム (詳細))」 をクリックします。



このダイアログボックスでは、Windows のインストール場所を尋ねられます。



7 次のいずれかの手順を実行します。

- **Windows** デフォルトのパーティション情報を上書きしない場合は、「**Next** (次へ)」をクリックして手順9に進みます。
- **Windows** のデフォルトパーティション情報を上書きする場合は、「**Drive Options (advanced)** (ドライブオプション (詳細))」オプションをクリックして手順8に進みます。



注意 - 既存のパーティションをフォーマットまたは再パーティション化すると、パーティション上のすべてのデータが失われます。

「Where Do You Want to Install Windows (Windows のインストール場所を選択してください)」ダイアログボックスが表示されます。

8 以下を実行します。

- a. 「**Delete** (削除)」をクリックして既存のパーティションを削除します。
確認のウィンドウが表示されます。
- b. 「**OK** (了解)」をクリックし、パーティションの削除を確定します。

- c. 「**New (新規作成)**」をクリックして新しいパーティションを作成します。
 - d. 必要に応じてパーティションサイズの設定を変更し、「**Apply (適用)**」をクリックします。
パーティションが作成されます。
 - e. 「**Next (次へ)**」をクリックして次の手順に進みます。
Windows のインストールが開始されます。
インストールプロセスでは、サーバーが複数回再起動します。このプロセスは数分かかる場合があります。
- 9 **Windows** のインストールが完了すると、**Windows** が起動され、ユーザーパスワードの変更を要求するプロンプトが表示されます。
 - 10 ユーザーパスワードのダイアログボックスで「**OK**」をクリックし、初期のユーザーログインアカウントを設定します。

注 - Windows Server 2008 R2 では、ユーザーアカウントに対して厳格なパスワード方式が適用されます。パスワードの規格には、長さ、複雑さ、および履歴に関する制限が含まれています。詳細は、アカウント作成ページの「**アクセシビリティ (Accessibility)**」リンクをクリックしてください。

初期ユーザーアカウントが作成されると、Windows Server 2008 R2 のデスクトップが表示されます。

- 11 **23 ページの「インストール後の作業」**に進みます。

PXE ネットワークを使用した Windows Server 2008 R2 のインストール

この節では、お客様が用意した Windows 展開サービス (Windows Deployment Services、WDS) の Windows Imaging Format (WIM) イメージファイルを使用して、構築済みの PXE ベースのネットワークで Windows Server 2008 R2 オペレーティングシステムをインストールするために必要な初期情報を提供します。

この節で説明する手順は、Windows 展開サービス (Windows Deployment Service、WDS) を使用してネットワーク経由で Windows 2008 R2 をインストールするための最初の手順です。具体的には、WDS インストールサーバーと通信するサーバー PXE ネットワークインタフェースカードを選択する手順について説明します。WIM イメージを使用して Windows 2008 R2 オペレーティングシステムをインストールする方法については、Windows 展開サービスに関する Microsoft のドキュメントを参照してください。

この手順が完了したあとで、[23 ページの「インストール後の作業」](#)で説明されているインストール後の作業を実行する必要があります。

▼ PXE を使用して Windows Server 2008 R2 をインストールする方法

始める前に ネットワーク全体へのインストールイメージの展開に使用する WDS サーバーをセットアップします。詳細は、Microsoft WDS ドキュメントを参照してください。

WIM イメージを使用してインストールを実行するために、次のことを行います。

- WIM インストールイメージを作成します。
Windows Server 2008 R2 のドキュメントに記載されている WIM のインストール手順に従います。
- 必要なシステムデバイスドライバを WIM インストールイメージに追加します。
手順については、[26 ページの「追加ソフトウェアのインストール」](#)を参照してください。
- WIM の管理者パスワードを取得します。

1 サーバーをリセットまたは電源投入します。たとえば、次のいずれかを実行します。

- ILOM Web インタフェースで、「Remote Control」タブから ILOM リモートコンソールを起動します。JavaRConsole のキーボードメニューから「Control Alt Delete」を選択します。
- ブレードのフロントパネルの電源ボタンを押して(約 1 秒)ブレードの電源を切り、電源ボタンをもう一度押してブレードの電源を入れます。

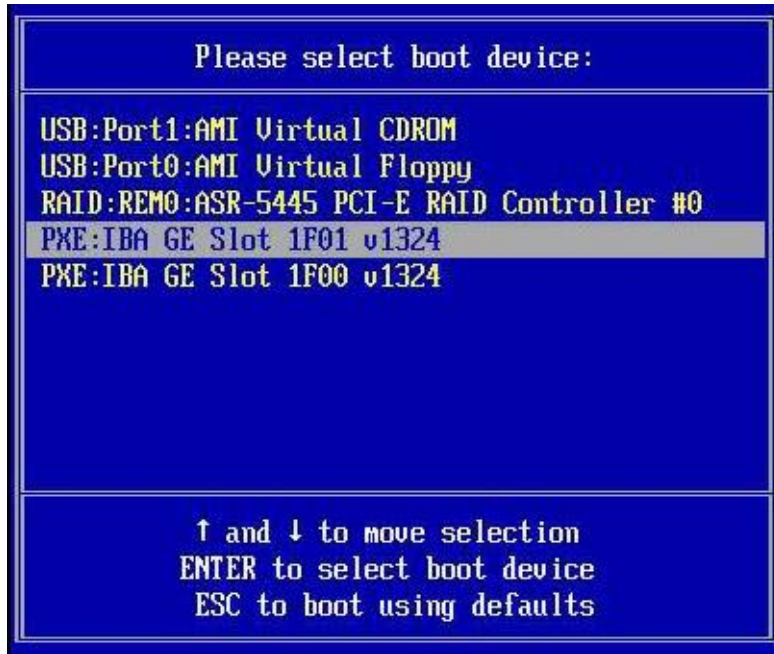
BIOS 画面が表示されます。

注-次のイベントがすぐに発生するため、以下のステップでは集中する必要があります。表示される時間が短いため、メッセージを注意して観察してください。スクロールバーが表示されないように画面のサイズを拡大する場合があります。

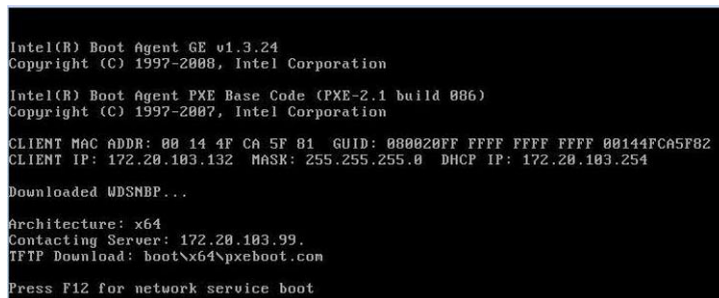
2 F8 キーを押して、一時起動デバイスを指定します。

起動デバイスを選択するように求めるダイアログボックスが表示されます。

- 適切な PXE インストール起動デバイスを選択して、**Enter** キーを押します。
PXE インストール起動デバイスは、ネットワークインストールサーバーと通信するように設定されている物理ネットワークポートです。



「Boot Agent (ブートエージェント)」ダイアログボックスが表示されます。



- 通常の Windows Server 2008 R2 WDS ネットワークインストールを続行します。詳細は、Microsoft の Windows 展開サービスに関する製品ドキュメントを参照してください。
- 23 ページの「インストール後の作業」に進みます。

インストール後の作業

Windows Server のインストールとオペレーティングシステムの再起動が完了したら、次の各節に示すインストール後の作業を確認し、使用しているシステムで該当する作業を必要に応じて実行します。

- 23 ページの「サーバー固有のデバイスドライバのインストール」
- 26 ページの「追加ソフトウェアのインストール」
- 28 ページの「WIM イメージにドライバを追加する方法」

サーバー固有のデバイスドライバのインストール

Sun は、Oracle サーバー固有のデバイスドライバおよび追加ソフトウェアをインストールするウィザードを提供しています。これらのドライバは、ウィザードを使用して取得できます。また、Tools and Drivers CD/DVD ISO イメージの Windows ディレクトリから直接取得することもできます。

Windows Server では、次のドライバが必要です。

- AST2100.V.90
- Chipset 9.1.1.1027
- 1GbE システムでは、Intel 15.5 NIC ドライバが必要です。
- 10GbE システムでは、Mellanox 1.3.0 NIC ドライバが必要です。

Sun Server インストールパッケージウィザードは、次のいずれかの場所から起動できます。

- サーバーの Tools and Drivers CD/DVD ISO イメージのメインメニュー。
- InstallPack_x_x_x.exe 実行可能ファイル。

注 - 最近ダウンロードした InstallPack_x_x_x.exe を使用してドライバを更新すると、サーバー固有のドライバを使用可能な最新のバージョンに更新できます。

▼ サーバー固有デバイスドライバのインストール方法

- 1 次のいずれかの方法を使用して、Sun インストールパッケージソフトウェアを起動します。

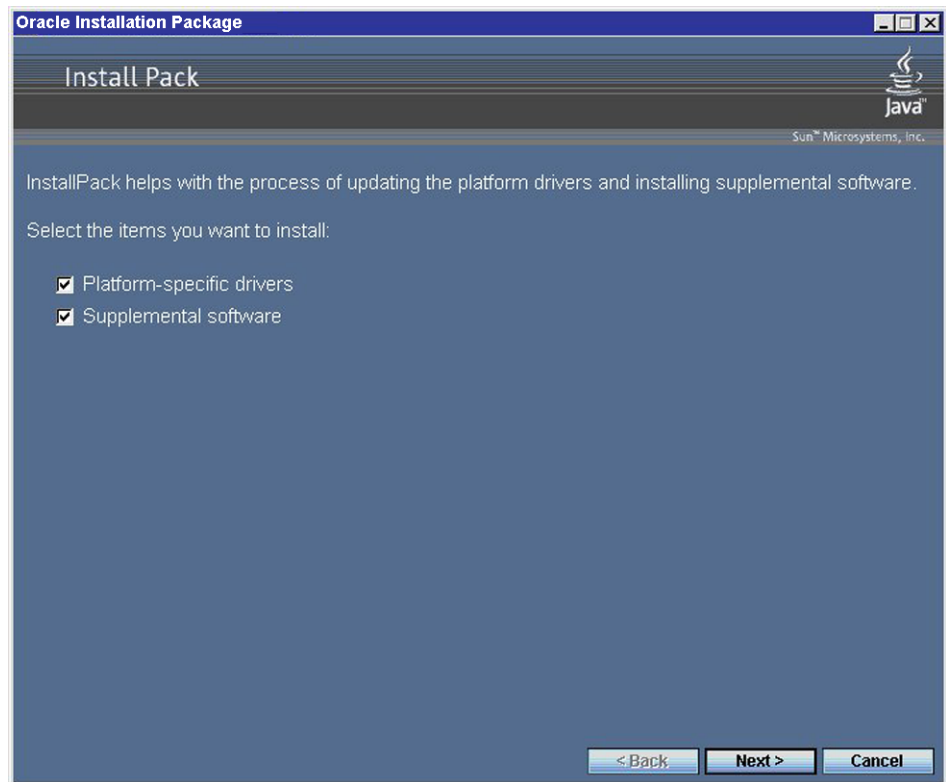
- RKVM、リモート DVD ドライブ、または USB DVD ドライブを使用して、Tools and Drivers DVD または ISO イメージにアクセスします。

DVD が自動的に起動します。

メインメニューで、Install Drivers and Supplemental Software (ドライバと追加ソフトウェアのインストール) を選択します。

- InstallPack_x_x_x.exe ファイルを Sun ダウンロードサイトからダウンロードした場合、サーバーのローカルドライブに必ずコピーしてから、InstallPack_x_x_x.exe アプリケーションを実行します。

「Sun Server Installation Package (Sun Server インストールパッケージ)」ウィンドウが表示されます。



- 2 「Next (次へ)」をクリックして、デフォルトのインストール可能項目を受け入れます。

注-最新バージョンのドライバが確実にインストールされるように、必ず「platform-specific drivers (プラットフォーム固有ドライバ)」を受け入れる必要があります。

インストールパックの注意ダイアログボックスが表示されます。

- 3 インストールパックの注意ダイアログボックスで、メッセージを読んでから「Next (次へ)」をクリックします。
- 4 「End User License Agreement (エンドユーザー使用許諾契約書)」ページで、「I Accept This Agreement (この契約書を承諾)」を選択してから、「Next (次へ)」をクリックします。

プラットフォーム固有のドライバがインストールされます。緑のチェックマークで、各ドライバが正常にインストールされたことを確認します。



- 5 「完了」をクリックします。
ダイアログボックスが表示されます。



注-追加ソフトウェアのインストールを行う場合(強く推奨)、この時点ではシステムを再起動しないでください。追加ソフトウェアのインストール後に、システムを再起動するように指示するメッセージが表示されます。

- 6 次のいずれかの操作を実行します。
 - 23 ページの「サーバー固有のデバイスドライバのインストール」に記載されているデフォルトのインストール可能設定を受け入れた場合は、「No(いいえ)」をクリックして26 ページの「追加ソフトウェアのインストール」に進みます。
 - 追加ソフトウェアをインストールしない場合は、「Yes(はい)」をクリックしてコンピュータを再起動します。

追加ソフトウェアのインストール

追加ソフトウェアのインストールウィザードでは、「**typical** (通常)」インストールを選択してすべての追加ソフトウェアをインストールすることも、「**custom** (カスタム)」インストールを選択してインストールするソフトウェアを個別に選択することもできます。追加ソフトウェアをインストールする手順については、[26 ページ](#)の「追加ソフトウェアのインストール方法」を参照してください。

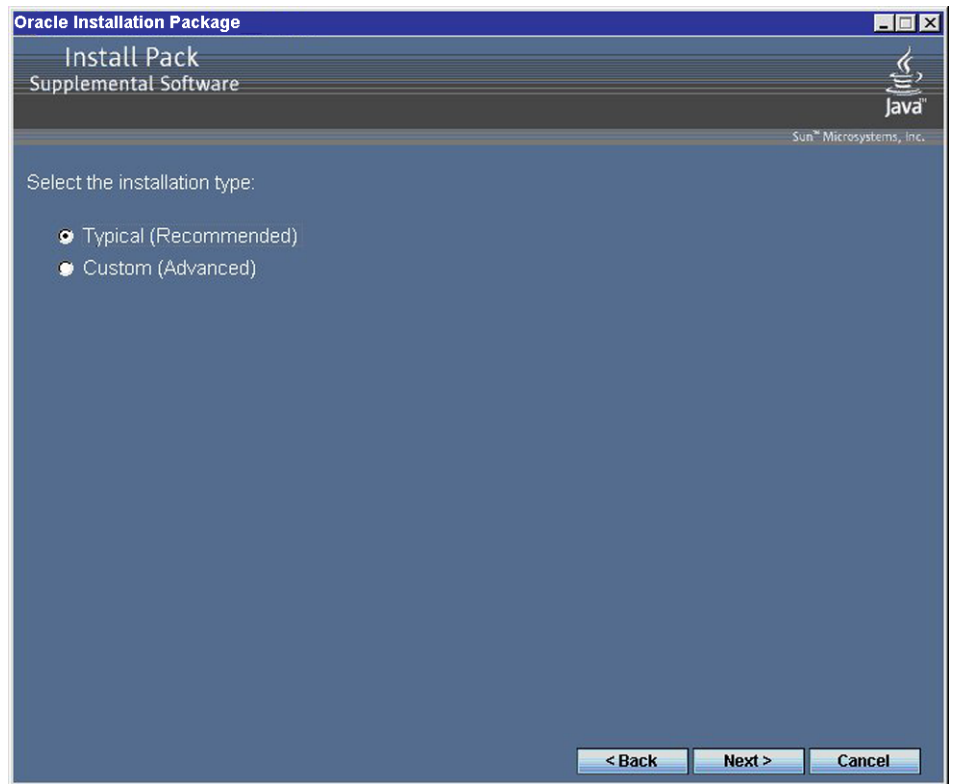
注-このリリースの時点では、追加ソフトウェアをインストールする必要はありません。この節は、情報の提供と今後の参考のために用意されたものです。

▼ 追加ソフトウェアのインストール方法

始める前に 追加ソフトウェアをすでにインストールしている場合には、インストールを再度実行しても、追加ソフトウェアが必ずしも再インストールされるわけではありません。削除される場合があります。追加ソフトウェアのインストール中にはダイアログボックスの内容を注意深く確認して、結果が期待どおりになるようにしてください。

- 1 次のいずれかの手順を実行します。

- 23 ページの「サーバー固有のデバイスドライバのインストール」に記載されている手順を実行したときに「Supplemental Software (追加ソフトウェア)」を選択しなかった場合は、この手順を再度実行します。ただし、その際には、デフォルトの設定を受け入れて「No (いいえ)」を選択します。
「Supplemental Software (追加ソフトウェア)」ダイアログボックスが表示されます。次のステップに進みます。
- 追加ソフトウェアを選択して「No (いいえ)」を選択した場合は、次のダイアログボックスが表示されます。次のステップに進みます。



- 2 「Install Pack Supplemental Software (インストールパックの追加ソフトウェア)」ダイアログボックスで、「Next (次へ)」をクリックして「Typical (通常)」設定を受け入れるか、「Custom (カスタム)」を選択してインストールオプションを選択します。
コンポーネントインストールウィザードの指示に従って、選択した追加ソフトウェアコンポーネントを順にインストールします。
- 3 追加ソフトウェアがインストールされたら、「Finish (完了)」をクリックします。

- 4 「**System Setting Change (システム設定の変更)**」ダイアログボックスで「**Yes (はい)**」をクリックして、システムを再起動します。

Sun Server インストールパッケージソフトウェアを Tools and Drivers DVD から実行した場合は、ここで DVD をシステムから取り出します。

▼ WIM イメージにドライバを追加する方法

1GbE システムの WIM イメージにドライバを追加するには、この手順を使用します。

注 - 10GbE システムの場合は、WIM イメージにドライバを追加できません。代わりに、OS がインストールされるまで待機し、Tools and Drivers CD/DVD ISO イメージの .msi ツールを使用して手動でドライバをインストールする必要があります。

- 1 **Windows Server 2008 R2 DriverPack_x_x_x.zip** の内容を、ディレクトリ構造を維持したまま、ネットワーク共有 (例: \\yourshare\share\DriverPack) に展開します。
- 2 更新するサービスイメージを選択して、イメージをエクスポートします。
 - a. 「**Start (スタート)**」をクリックし、「**Administrative Tools (管理ツール)**」をクリックして、「**Windows Deployment Services (Windows 展開サービス)**」をクリックします。
 - b. サービスのイメージを見つけます。イメージを右クリックして、「**Disable (無効にする)**」をクリックします。
 - c. イメージを右クリックし、「**Export Image (イメージのエクスポート)**」をクリックします。ウィザードの指示に従って、イメージを適切な場所にエクスポートします。

- 3 上の手順でエクスポートした **Windows** イメージをマウントします。例:

```
imagex /mount /wim C:\windows_distribution\sources\install.wim 1 C:\win_mount
```

Install.wim ファイル内の最初の Windows イメージが C:\win_mount にマウントされます。

- 4 **Windows** システムイメージマネージャー (**Windows System Image Manager, Windows SIM**) を使用して、インストールするデバイスドライバのパスが含まれる応答ファイルを作成します。

Windows SIM アプリケーションの起動方法の詳細については、Windows 自動インストールキット (Windows Automated Installation Kit, AIK) の Microsoft のドキュメントを参照してください。

- 5 **Microsoft-Windows-PnpCustomizationsNonWinPE** コンポーネントを **offlineServicing** パスにある応答ファイルに追加します。
- 6 応答ファイルの **Microsoft-Windows-PnpCustomizationsNonWinPE** ノードを展開します。 **DevicePaths** を右クリックし、「**Insert New PathAndCredentials (新しい PathAndCredentials を挿入)**」をクリックします。
新しい PathAndCredentials リスト項目が表示されます。
- 7 **Microsoft-Windows-PnpCustomizationsNonWinPE** コンポーネントで、ネットワーク共有上の **DriverPack** フォルダ内のアーキテクチャーフォルダへのパスと、ネットワーク共有へのアクセスに使用する資格情報を指定します。
たとえば、64ビットイメージの場合のパスと資格情報は次のようになります。

```
<PATH>\\yourshare\share\DriverPack\64bit</Path>
<Credentials>
<Domain>MyDomain</Domain>
<Username>MyUserName</Username>
<Password>MyPassword</Password>
</Credentials>
```

- 8 応答ファイルを保存し、**Windows SIM** を終了します。応答ファイルは、次のサンプルのようになります。このサンプルでは、アーキテクチャーが **64** ビットであると想定しています。

```
<?xml version="1.0" ?>
<unattend xmlns="urn:schemas-microsoft-com:asm.v3"
xmlns:wcm="http://schemas.microsoft.com/WMIConfig/2002/State">
  <settings pass="offlineServicing">
    <component name="Microsoft-Windows-PnpCustomizationsNonWinPE"
      processorArchitecture="amd64" publicKeyToken="31bf3856ad364e35"
      language="neutral" versionScope="nonSxS">
      <DriverPaths>
        <PathAndCredentials wcm:keyValue="1">
          <Path>\\yourshare\share\DriverPack\64bit</Path>
          <Credentials>
            <Domain>MyDomain</Domain>
            <Username>MyUserName</Username>
            <Password>MyPassword</Password>
          </Credentials>
        </PathAndCredentials>
      </DriverPaths>
    </component>
  </settings>
</unattend>
```

- 9 マウントした **Windows** イメージにパッケージマネージャーを使用して自動インストール用の応答ファイルを適用します。ログファイルを作成する場所を指定します。例:

```
pkgmgr /o:"C:\wim mount\;C:\wim mount\Windows" /n:"C:\unattend.xml" /l:"C:\pkgmgrlogs\logfile.txt"
```

応答ファイル内のパスで参照される **.inf** ファイルが **Windows** イメージに追加されます。ログファイルは、ディレクトリ **C:\Pkgmgrlogs** に作成されます。

パッケージマネージャーの使用方法については、Microsoft Windows AIK のドキュメントを参照してください。

- 10 マウントされた Windows イメージ内の %WINDIR%\Inf\ ディレクトリの内容を確認し、.inf ファイルがインストールされていることを確認します。
Windows イメージに追加されたドライバには、oem*.inf という名前が付けられます。これは、コンピュータに追加される新しいドライバの名前が一意になるようにするためです。たとえば、MyDriver1.inf および MyDriver2.inf というファイルは、oem0.inf および oem1.inf という名前に変更されます。
- 11 .wim ファイルのマウントを解除し、変更内容をコミットします。例:

```
imagex /unmount /commit C:\wim_mount
```
- 12 サービスイメージを置換してイメージを有効にします。
 - a. Windows 展開サービススナップインが動作していない場合は、「Start (スタート)」をクリックし、「Administrative Tools (管理ツール)」をクリックして、「Windows Deployment Services (Windows 展開サービス)」をクリックします。
 - b. サービスのイメージを見つけます。イメージを右クリックし、「Replace Image (イメージの置換)」をクリックします。ウィザードの指示に従って、このサービスイメージを更新された Windows イメージに置き換えます。
 - c. サービスイメージを右クリックし、「Enable (有効にする)」をクリックします。
サービスのイメージが使用できるようになり、サーバー固有のすべてのドライバがイメージに追加されます。

索引

D

DVDからのインストール, Windows, 14-19

I

iPXEサーバーからのインストール, Windows, 19

ISOイメージからのインストール,
Windows, 14-19

P

PXEイメージ, Windowsのインストール元, 19

PXEインストール, 19

W

WIMイメージ
ドライバの追加

Windows, 28-30

Windows

PXEインストール, 19

WIMイメージへのドライバの追加, 28-30
インストール, 13-21

ドライバのインストール, 23

配布メディアからのインストール, 14-19

メディアのダウンロード, 13

い

インストール, Windows, 13-21

と

ドライバのインストール, Windows, 23

は

配布メディアからのインストール,
Windows, 14-19

め

メディアのダウンロード, Windows, 13

